



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 訃報：原田敏丸先生                                                                   |
| Author(s)    | 廣田， 誠                                                                       |
| Citation     | 大阪大学経済学. 2021, 71(1), p. 40-42                                              |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/81861">https://doi.org/10.18910/81861</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 原田敏丸先生



本学名誉教授（経済学研究科）原田敏丸（はらだ としまる）先生は、令和3年3月15日にご逝去されました。享年96歳でした。

原田先生は大正14年のお生まれで、従軍ののち昭和21年神宮皇學館大學、次いで昭和24年九州帝国大学法文学部経済科を卒業されました。同大学院特別研究生、大分大学経済学部講師、滋賀大学経済学部講師・助教授・教授を経て昭和44年10月大阪大学経済学部教授に就任され、経済史・日本経済史の講義および演習を担当されました、また昭和44年、大阪大学より経済学博士の学位が授与されました。

原田先生は恩師である宮本又次先生（大阪大学名誉教授）から実証的な経済史研究の学風を継承され、農村社会経済史を専門分野とされました。そのご著書には山割制度の研究を通じて日本農村の共同体的組織解体と農村経済近代化の重要な局面を明らかにした『近世入会制度解体過程の研究』（塙書房、昭和44年）、近世村落の社会構造に関する諸問題を論じた『近世村落の経済と社会』（山川出版社、昭和58年）のほか、宮本又郎先生（大阪大学名誉教授）との共著である『シンポジウム・歴史の中の物価』（同文館、昭和60年）があります。さらに「近江の近世村落における家格について」（『社会経済史学』第36巻第3号、昭和45年）、「宮座について」（同第44巻第4号、昭和54年）など多数の論文によって、近世日本農村社会経済史の研究を大きく前に進められました。

また中世社会経済史に関する貴重な史料である『菅浦文書』を昭和35－42年に編さんされ、本学経済史・経営史史料室に近畿農村文書をはじめとする多数の古文書を収集されるなど、日本経済史研究の発展に多大な貢献をなされました。

さらに原田先生は、学内においては経済学部長（1981－83年）をお勤めになり、また学外では社会経済史学会の理事など学会の要職を歴任されました。1988年の定年退官に際しましては本学名誉教授の称号をお受けになり、退官後は帝塚山大学経済学部教授に就任されました。

原田先生に私が初めてお目にかかりましたのは、大学院入試に合格した直後、はじめて阪大の経済史経営史研究室へご挨拶にうかがった時でした。端正な風貌ながら豪快に笑われることが大変印象的で、大学院で学ぶことへの不安と緊張をほぐしていただきました。

さらに大学院で学ぶようになりましてからは、古文書読解の手ほどき（「古文書は少し訓練すれば80%くらいは読めるようになるが、そこから100%読めるようになるまでには相当の努力を要する」と言っておられました）や、文書整理の心得（「古文書を扱う際には、文書を汚さないようインクを用いた筆記用具は使ってはならない」といった）、文書の写真撮影の方法（当時はデジタルではなく銀塩フィルムの時代で、古文書の撮影には高度な技術が必要であった）といった研究を行う上での基本について懇切丁寧なご指導を賜りました。また史料調査にも参加させていただき、現場を実体験させていただきました。

さらに経済史研究に民俗学的手法を導入した原田先生独自のご研究の成果につきましても多々お教えいただきました（ただしその際原田先生は、民俗学の研究成果にはどの時点で観察された現象であるのかを明確にしていないものが少なくないと注意を促されましたが）。この時原田先生が近世の農村における祭礼や埋葬について語られたことは、当時はただ興味深いお話しとして拝聴致しましたが、後になって葬祭に関する制度が各社会・民族の特性を理解する上できわめて重要な要素であることを知り、改めて先生の学恩に感謝致しました。

原田先生の研究に対する情熱は終生衰えることなく、今より10年ほど前に経済史関係の名誉教授の先生方と現役の教員による宴が催されたおりには、「明日は新幹線で東京に行って、レンタカーで千葉県下を史料調査するんだ」と、以前と変わらない朗らかな口調で語っておられました。

最後になりますが、原田敏丸先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

令和3年4月

（廣田 誠 大阪大学大学院経済学研究科教授）

